

平安京右京三条一坊三町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条一坊三町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび土地区画整理事業に伴います平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

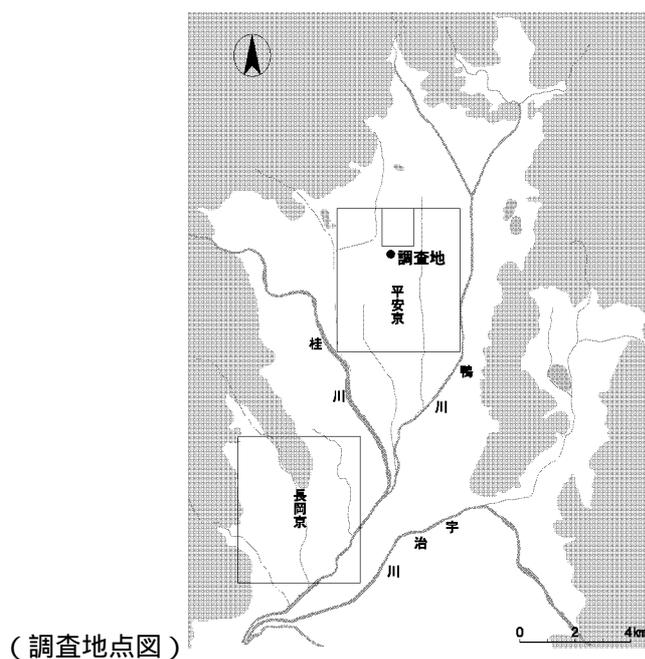
平成16年3月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条一坊三町跡
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京梅尾町
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 榊本頼兼
- 4 調査期間 2004年2月20日～2004年3月12日
- 5 調査面積 75m²
- 6 調査担当者 田中利津子
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺 構 番 号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺 物 番 号 通し番号を付した。
- 14 掲 載 写 真 村井伸也・幸明綾子・調査担当職員
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 本書作成 田中利津子・本 弥八郎
- 17 編集・調整 児玉光世・清藤玲子



目 次

1 . 調査経過	1
2 . 遺 構	2
(1) 層 序	2
(2) 遺 構	2
3 . 遺 物	4
4 . ま と め	5

図 版 目 次

図版 1	遺 構	1	第 2 面全景 (北から)
		2	第 3 面全景 (北から)
図版 2	遺 構	1	溝33 (北から)
		2	築地断割り状況 (南東から)

挿 図 目 次

図 1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図 2	調査前全景 (北東から)	2
図 3	調査風景 (南東から)	2
図 4	北壁断面図 (1 : 50)	2
図 5	第 2 面 近世以降遺構平面図 (1 : 100)	3
図 6	第 3 面 中世・平安時代遺構平面図 (1 : 100)	3
図 7	出土土器実測図 (1 : 4)	5
図 8	出土軒平瓦拓影・実測図 (1 : 4)	5

表 目 次

表 1	遺構概要表	4
表 2	遺物概要表	4

平安京右京三条一坊三町跡

1. 調査経過

今回の発掘調査は、京都都市計画（京都国際文化観光都市建設計画）都市計画事業二条駅地区土地区画整理事業に伴うもので、同事業関連の調査としては1992年度から続く18次調査となる。

調査地は二条駅地区の敷地内にある二条駅の南西で、平安京右京三条一坊三町の西面築地と西坊城小路東側溝の位置に推定される。JR二条駅周辺では京都市による土地区画整理事業などに伴い1989年から継続して発掘調査が実施されている。1996～1997年度に当研究所が実施した発掘調査¹⁾（図1 - 調査1）では平安時代の建物跡が検出されており、建物周辺から右京職を裏付ける墨書土器が出土している。また、1998年度に今回の調査地の北で実施した発掘調査²⁾（調査2）では西坊城小路東側溝と推定築地心の位置で柱穴を、さらに2001年度の発掘調査³⁾（調査3）の三町地区でも西坊城小路東側溝と右京職西面築地および三条坊門小路の両側溝を検出している。

今回の調査目的は、上記の調査に続く西坊城小路東側溝と築地を検出することにある。

調査は、推定右京職西面築地の位置に調査区70㎡を設定して、2004年2月20日より調査を開始した。掘削を開始したところ、調査区の南半分は攪乱で削平されており、北半分の調査を行った。調査では、中世の耕作溝や平安時代の築地、小路側溝、柱穴等を検出し、途中、調査区西側の一部拡張（5㎡）を行い、2004年3月11日に埋め戻し調査を終了した。

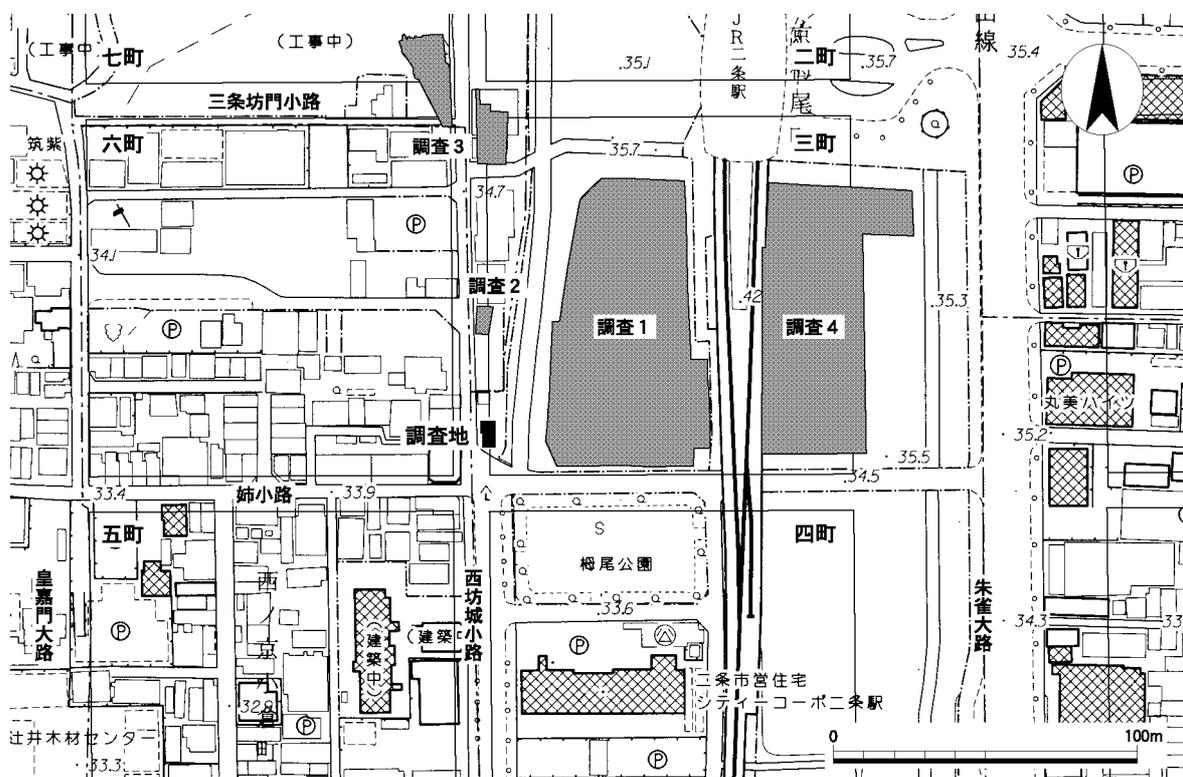


図1 調査位置図（1：2,500）



図2 調査前全景（北東から）



図3 調査風景（南東から）

2. 遺 構

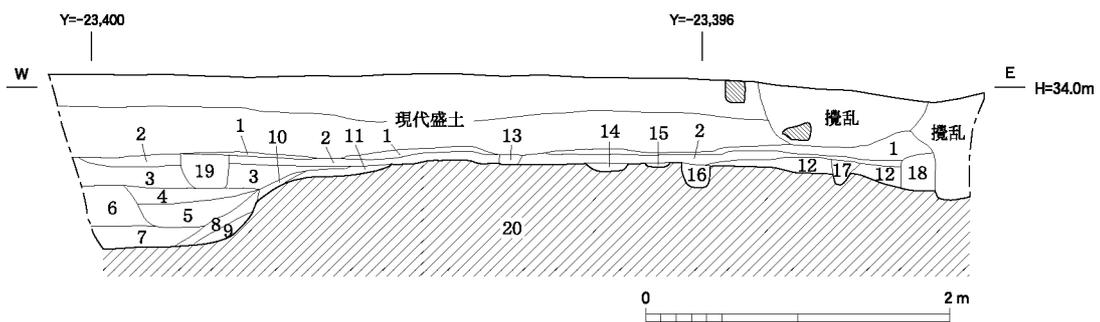
(1) 層 序 (図4)

調査地の基本層序は、近・現代の盛土層が40～60cm、近世・近代の耕土層が10～20cm、遺物や礫を含む固く締まった暗褐色砂泥の整地層とみられる堆積が8cmあり、以下が地山となる。整地層の上面では近世以降の遺構を検出した。地山の上面では中世の耕作溝や平安時代の遺構を検出した。地山は10YR5/3にぶい黄褐色微砂と2.5Y6/2灰黄色砂礫からなり、標高は33.5mである。

(2) 遺 構 (図5・6)

近世・近代 (図5)

第2面で検出した近世・近代の遺構には、溝・土壇・柱穴などがある。溝は2条あり、ともに



- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥（耕作土） | 11 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、小礫混 |
| 2 7.5Y3/3暗褐色砂泥、固く締まる | 12 10YR3/2黒褐色砂泥+10YR4/6褐色砂泥、固く締まる |
| 3 10YR3/3暗褐色砂泥 | 13 2.5Y3/1黒褐色砂泥（柱穴26） |
| 4 10YR4/2灰黄褐色砂泥、粘質 | 14 2.5Y4/1黄灰色粘質土+10YR4/4褐色砂泥（耕作溝） |
| 5 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫、底部に粗砂 | 15 2.5Y4/1黄灰色粘質土+10YR4/4褐色砂泥（耕作溝） |
| 6 10YR3/2黒褐色砂泥、粘質 | 16 10YR3/2黒褐色砂泥（柱穴44） |
| 7 10YR3/2黒褐色シルト、炭混 | 17 10YR3/2黒褐色砂泥（土壇16） |
| 8 10YR3/2黒褐色砂泥 | 18 5Y2/2オリーブ黒色砂泥、粘質（溝8） |
| 9 10YR4/1褐灰色砂礫 | 19 10YR3/3暗オリーブ褐色砂泥（溝31） |
| 10 10YR4/2灰黄色砂泥 | 20 2.5Y6/2灰黄色砂礫（地山） |

図4 北壁断面図（1：50）

南北方向である。

溝8 調査区東端で検出した。深さ20cm、長さ4m以上あり、東側と南側は攪乱で削平されている。埋土には木片と炭が多量に混入する。近世以降の施釉陶器などが出土。

溝31 拡張部分で検出した。幅30cm、深さ20cm、長さ4.5m以上あり、調査区外に延長する。埋土の下層には、径3～5cmの小礫が詰まっており、湿気抜き溝である。溝からは近世以降の遺物が出土した。

中世(図6)

第3面で検出した遺構には中世の耕作溝がある。

耕作溝 東西方向、南北方向共に3条あり、幅25～40cm、深さ5～15cmの規模である。埋土か

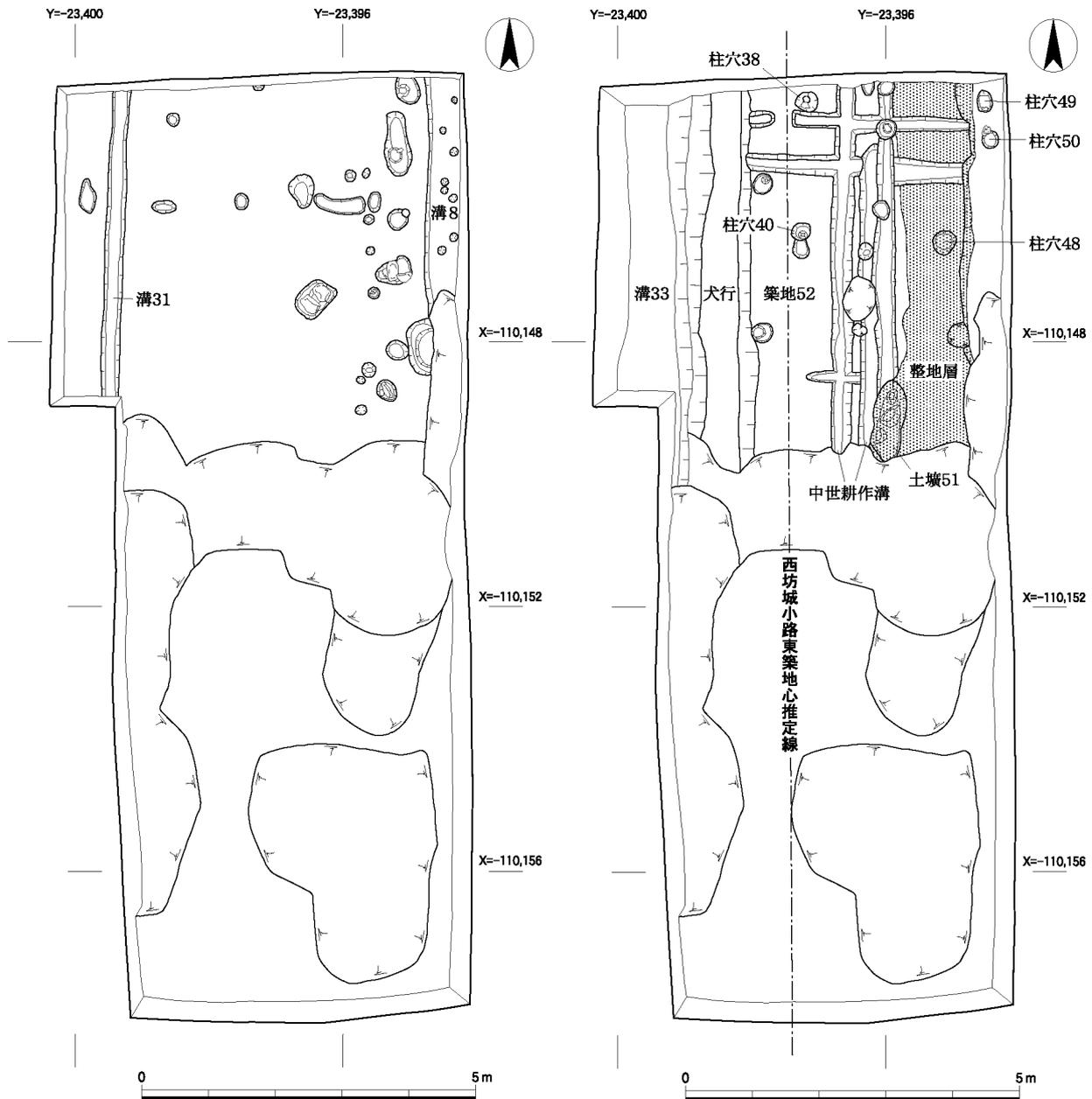


図5 第2面 近世以降遺構平面図(1:100)

図6 第3面 中世・平安時代遺構平面図(1:100)

表1 遺構概要表

時 代	遺 構
平安時代	溝、築地、土壇、柱穴
中 世	耕作溝
近世・近代	溝、土壇、柱穴

らは中世の土器類に混ざり平安時代後期の遺物が少量出土した。

平安時代（図6）

中世の遺構と同一面で、平安時代の小路側溝・築地跡・土壇・柱穴を検出した。

溝33 西坊城小路東側溝で、規模は幅1.3m以上、深さ45cm、長さ5.8m以上あり、

南は攪乱で削平されている。溝下層には水の流れた跡を示す砂礫が堆積する。埋土から平安時代中期から後期の遺物が出土している。この溝は、築地寄りに幅90cm、深さ24cmの規模で一度掘り直されているが、遺物内容から時期差はほとんど認められない。

土壇51 調査区中央部で検出した。規模は南北1.2m以上、東西50cm、深さ8cmの不整楕円形を呈し、底部3箇所に小穴を検出した。遺構の性格は不明。

柱穴 総数で12基検出した。遺物の出土しない柱穴もあるが、埋土などからいずれも平安時代と考えられる。南北に並ぶ柱穴38・40は径約40cmの円形で、両柱穴の間隔は2.0である。埋土からは平安時代の土師器細片が出土している。整地層下面で検出した柱穴48やその東側で検出した柱穴49・50からは9世紀初頭の土師器が出土している。なお柱穴38・40の位置は、西坊城小路西面築地の心にほぼ沿っており、前述の調査（調査2）で検出の柱穴と南北に並ぶ。

築地52 基底部が台形状に遺存しており、幅は2.0～2.3mある。築地西側の犬行とみられる部分は幅70cm、深さ5cmの段を形成する。

整地層 築地東側はなだらかに傾斜し、その上部に黒褐色砂泥が堆積し、上面は礫と遺物を含んだ土で固く叩き締められ整地されている。この整地層からは9世紀代の土器類が出土している。

3. 遺 物

出土遺物はコンテナ8箱である。時期は平安時代から近代にわたるが、近世以降と平安時代が

表2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入白磁・青磁、瓦類	5箱	土師器2点、須恵器3点、灰釉陶器2点、軒平瓦1点	3箱	1箱
中 世	土師器、瓦器、施釉陶器	1箱	土師器1点	0箱	1箱
近世以降	土師器、施釉陶器、焼締陶器、磁器、染付、瓦類、土製品	3箱		0箱	3箱
合 計		9箱	9点（1箱）	3箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

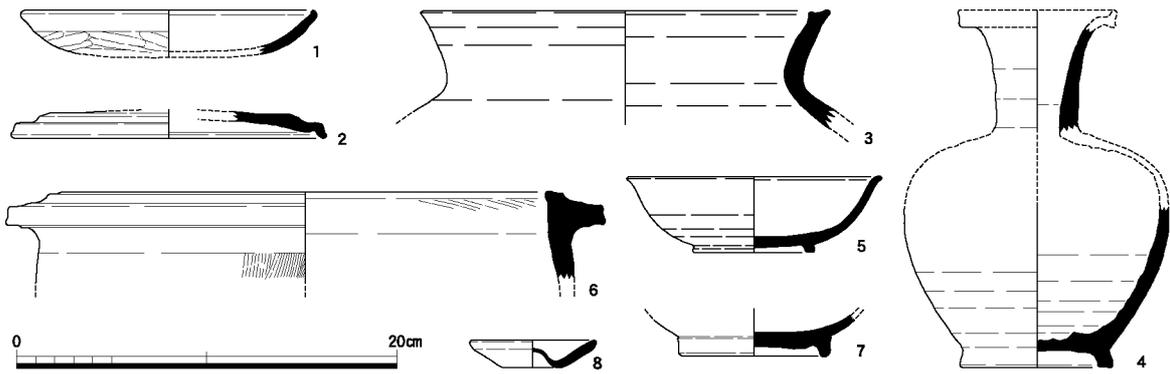


図7 出土土器実測図(1:4)

ほとんどである。

近世以降の遺物は、耕作土層や溝・土壙・柱穴などから、土師器、磁器、染付、施釉陶器、土製品(泥面子・人形)など生活雑器が多く出土している。

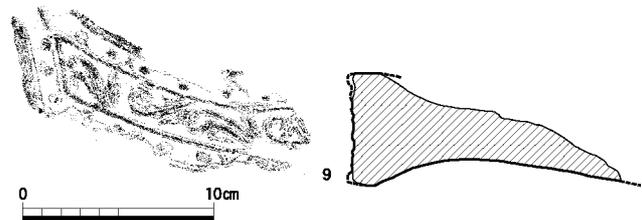


図8 出土軒平瓦拓影・実測図(1:4)

中世の遺物はごくわずかで、側溝33の

埋土上面から出土したものである。土師器のなかに室町時代のヘソ皿(8)がある。

平安時代中期から後期の遺物は、おもに側溝33から出土している。中期(10世紀)の土器類では、土師器皿・羽釜(6)、須恵器壺・甕・鉢、灰釉陶器椀(7)、緑釉陶器などがあり、後期の土器類では土師器皿、瓦器椀、輸入白磁・青磁皿などがある。瓦類は多く出土しているが、ほとんどが平瓦である。

平安時代前期(9世紀代)の遺物は、築地東側の整地層から出土している。軒平瓦(9)は、⁴⁾ 範ズレがあり不鮮明だが平城宮6710A型式である。土器類では土師器皿(1)・甕、須恵器杯・杯蓋(2)・甕(3)・瓶(4)、黒色土器、緑釉陶器椀、灰釉陶器椀(5)がある。

4.まとめ

今回の調査では西坊城小路東側溝や右京職西面築地跡を良好な状態で検出し、1998年度²⁾・2001年度³⁾の調査で検出された側溝や築地跡がこの地まで南延することが確認できた。この側溝は平安時代後期に一度造り替えられているが、ほどなく埋められてしまったことが出土遺物からわかる。また築地東側の整地層から出土した9世紀代の遺物は、前回の調査で検出した築地から転落した状態と考えられる瓦の一群に伴う遺物の時期と、ほぼ一致することから、この時期に整地がなされたと考えられる。当地東側の右京職の調査⁵⁾(図1-調査4)でも、9世紀前半と10世紀代の整地層が確認されており、「整地が何度か繰り返し行われたようである。」としている。また同調査では、今回と同じく三町東面築地心の位置に柱穴列を検出しているが、柱間隔が約2.0で、柱筋が推定築地心よりわずかに東に振れるなど今回と近似することがわかった。

右京職の廃絶時期は明確ではないが、衰退とともに平安時代後期には側溝が埋められ、中世には耕作地となる。その後、耕作溝も埋められて整地され、近世以降には再び耕作地となる。

註

- 1) 伊藤 潔「平安京右京三条一坊2」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 2) 伊藤 潔「平安京右京三条一坊1」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 3) 本 弥八郎・平尾政幸・山口 真『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』京都市埋蔵文化財研究所 発掘調査概報 2002-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 4) 『奈良国立文化財研究所基準資料 瓦編2 解説』奈良国立文化財研究所 1975年
- 5) 平尾政幸・山口 真『平安京右京三条一坊三町(右京職)跡』京都市埋蔵文化財研究所 発掘調査概報 2001-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょういちぼうさんちょうあと							
書名	平安京右京三条一坊三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2003-16							
編著者名	田中利津子・本 弥八郎							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょういちぼう 三条一坊 さんちょうあと 三町跡	きょうとしなかげょうく 京都市中京区 にしのかょうとがのおちょう 西ノ京梅尾町	26100		35度 00分 24秒	135度 44分 37秒	2004年2月 20日～2004 年3月12日	75m ²	区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京 三条一坊 三町跡	都城	平安時代	溝・築地・土塙・ 柱穴	土師器・黒色土器・須 恵器・灰釉陶器・緑釉 陶器・輸入陶磁器・瓦 類				
		中世	耕作溝	土師器・瓦器・施釉陶 器				
		近世以降	溝・土塙・柱穴	土師器・施釉陶器・焼 締陶器・磁器・染付・ 瓦類・土製品				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-16

平安京右京三条一坊三町跡

発行日 2004年3月31日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961